

令和6年度 後志教育研修センター

調査研究事業報告会

社会教育調査研究委員会

報告内容

- 1 調査研究内容について
- 2 アンケート調査の結果からみる後志管内の
コミュニティ・スクールの現状
- 3 次年度へ向けて

1. 調査研究内容について

(1) 今年度の研究内容・計画について

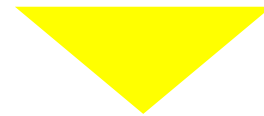
○メインテーマとサブテーマ

メインテーマ

「持続可能な社会に向け、

地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育のあり方」

(道主事会)



サブテーマ

「後志管内におけるコミュニティ・スクールと地学協働の現状と課題」

(後志独自)

(2) 後志管内の現状（昨年度の調査・研究結果から）

後志管内の19市町村が学校運営協議会を導入しているが・・・



現状

学校運営協議会が整備されてはいるが、十分な機能が果たせていない（前進できていない）！

(3) 自治体単独での取り組みには限界がある

○取組みが進むには、**タイミングがカギ!**

広域的に取り組むことで、
一定水準の質を確保する
ことが可能に!

・ 行政職員、 教職員、 地域住民 など



○岩内町教育委員会 金本 真一 氏



「他の自治体の取組みを参考にしながら、進めていきたい」

(4) 後志全体の底上げを！



(5) 研究内容・研究計画の全体像 (主事会5か年計画)

後志管内のコミュニティ・スクールと地学協働の **前進** に向けた展望 (R5~R9)

3 各自治体の取り組みを一般化したモデルを作成!



プッシュ!

「Shiribeshi」モデルとは・・・
各自治体の取り組みを一般化して、「誰が携わっても」、「どの自治体でも」同じような水準を維持して取り組みができるように整理したもの(「手引書」をイメージ)。

5 「Shiribeshi」モデルの反動&教委の強いアクセル



1 令和6年度 車両点検 = 「課題の発見」



2 令和7年度 車両整備 = 「課題の改善」



前進

後志管内の取り組みが前進!

2. アンケート調査の結果からみる 後志管内のコミュニティ・スクールの現状

大変感謝しております！

これまでの回答数

◆学校運営協議会委員・・・127件

◆学校教職員・・・・・・・・・・327件

◆各教育委員会・・・・・・・・17件

◆小学6年・中学3年・・・・420件

計 891 件

調査結果のまとめ方（2つ）

各自治体が行う運営状況の整理（形式面）

これまでには、ありそうでなかった表だよな！

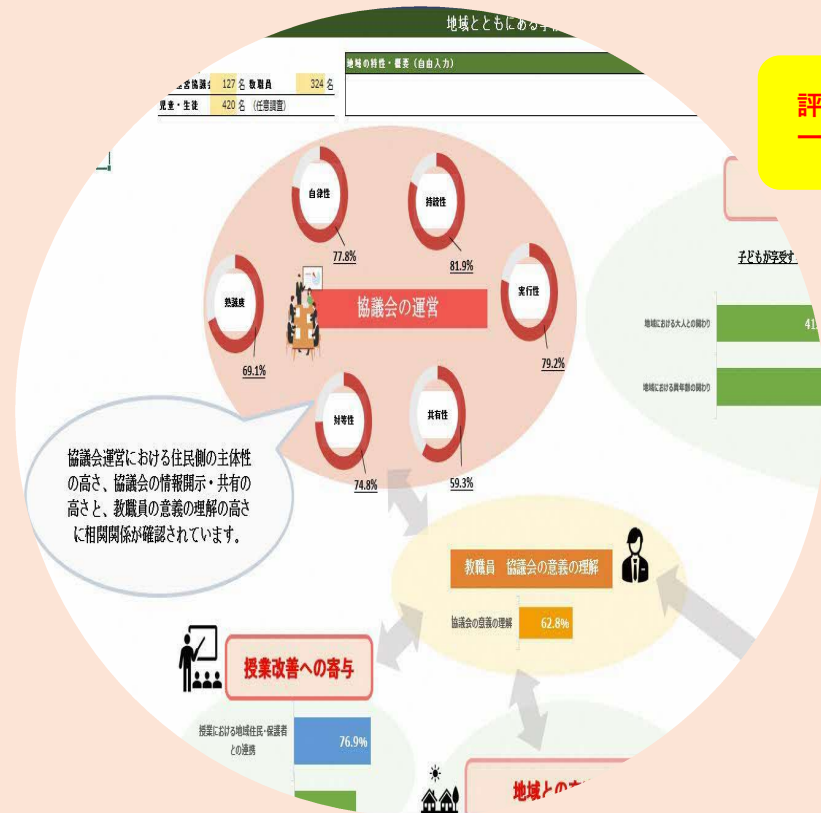


自治体	名称	対象校	学年	実施内容
島牧町	島牧村学校運営協議会	島牧小、島牧中		
再都町	①再都小学校運営協議会 ②湖路小学校運営協議会 ③再都中学校運営協議会	①再都小 ②湖路小 ③再都中	H26	
黒松内町	①黒松内地区学校運営協議会 ②白井川地区学校運営協議会	①黒松内小、黒松内中 ②白井川小、白井川中	H30	社会教、 生涯学習
4 蘭越町	蘭越町学校運営協議会	蘭越小、昆布小、蘭越中	R4	社会教育・ 生涯学習
5 ニセコ町	ニセコ町学校運営協議会	幼児センター、ニセコ小、近藤小、ニセコ中、ニセコ高	R1	学校教育係
6 英狩村	英狩村学校運営協議会	英狩小、英狩中	R5	社会教育・ 生涯学習
7 留寿都村	留寿都村学校運営協議会	留寿都小、留寿都中	R1	社会教育・ 生涯学習
喜茂別町	喜茂別町学校運営協議会	喜茂別小、鈴川小、喜茂別中	R4	教育振興
京極町	京極町学校運営協議会	京極小、京極中	R3	学校
倶知安町	①倶知安小学校運営協議会 ②東小学校運営協議会 ③西小学校運営協議会 ④北陽小学校運営協議会 ⑤樺山分校学校運営協議会 ⑥倶知安中学校運営協議会	①倶知安小 ②東小 ③西小 ④北陽小 ⑤西小樺山分校 ⑥倶知安中		



各自治体の成果状況（内容面）

評価点と課題点が一目でわかるね！



表の活用方法

- ①各々の自治体・学校の取り組み状況を客観的に知る
- ②運営するうえで困ったことが出てきたときに、他の自治体・学校に相談できるツール

表の活用方法

- ①各々の自治体で行う取り組みの成果（達成度）の把握
⇒会議、研修会などで使用
- ②今後の学校運営や協働活動の改善に向けた「次なる一手」を考えるツール

各自治体の運営状況について（形式面）：何を調査したのか!?(①)

1. 設置形態・協議会数



2. 導入年度・CS担当部署



3. 委員の人数・年間報酬



4. 年間の会議数



5. コーディネーターの設置・属性



6. 地域学校協働本部



各自治体の運営状況について（形式面）：何を調査したのか!?!②

7. 年間の学校支援活動の回数



8. 学校支援活動の内容



9. 学校支援ボランティアへの謝礼



各自治体の運営状況について（形式面）：どんな結果だったのか!?!①

1. 設置形態

各学校毎に設置
5自治体

複数校に設置
14自治体

2. 導入年度・CS担当部署

平成 4自治体
令和 15自治体

学校教育係他 7自治体
社会教育係他 12自治体

3. 委員の人数・年間報酬

平均人数
13人

報酬
あり 14自治体
なし 5自治体

4. 年間の会議数

年間
平均3回程度

5. コーディネーターの設置・属性

設置
有り 12自治体

属性
行政職員 5自治体
学校支援員 1自治体
協議会委員 2自治体
地域住民 3自治体
会計年度任用職員 1自治体

6. 地域学校協働本部

設置している
7自治体

各自治体の運営状況について（形式面）：どんな結果だったのか!?!②

7. 年間の学校支援活動の回数

年10回以上

10 自治体

8. 学校支援活動の内容

1位 ゲストティーチャー型
(職業講話、読み聞かせ)

2位 学習アシスタント型
(校外学習の引率など)

3位 環境サポーター型
(体験活動の受け入れなど)

9. 学校支援ボランティアへの謝礼

謝礼 あり

9 自治体

結果の考察

- コーディネーターを配置している自治体は、学校支援活動の回数が多い傾向
- 地域学校協働本部を設置している自治体は、学校支援活動の回数が多い傾向

協議会委員による 回答結果！

各自治体の成果状況について（内容面）：学校運営協議会委員による回答結果「評価点&課題点」

1. 自立性

① 学校運営に対して率直な意見を述べる機会がある

91%



② 教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある

33%



2. 対等性

① 協議会内は忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある

89%



② 子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある

57%



3. 持続性

① 校長等、教職員の異動に関わらず継続して議論ができる体制がある

84%



② 協議会の運営方針・方法について振り返り・見直しを行う機会がある

76%



4. 熟議度

① 学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている

82%



② 協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階からかわることがある

50%



5. 実効性

① 協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている

91%



② 議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている

60%



6. 共有性

① 学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している

86%



② 地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている

28%



協議会委員による 回答結果！

—ワンポイント解説—

6. 共有性：情報の共有

取り組みを価値づける

✓ 教育局への情報提供

✓ 報道機関への情報提供

✓ 学校内の掲示物

✓ ホームページ、ブログ

✓ 学校だより、CSだより

✓ 目指す姿の共有



この日は、町産業振興課の西村尚絨係長らが講師として参加。生徒の観光プログラムについて助言した。西村係長は「地域の特徴を捉えた素晴らしい案ばかりで参考にしたい」と講評。発表を終えた男子生徒は「知らなかった寿都の良いところが見つかった」と話した。
(岩木由菜)



教職員による回答結果！

1. 協議会の意義の理解

① 協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ

82%

重要!

② 学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある

41%



3. 生徒指導・生活指導の充実

① 子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする

68%



② 地域の方が子どもの話を聞いてくれたり、アドバイスをくれたりすることが、生活指導の負担軽減につながっている

48%



2. 授業改善への寄与

① 地域との協働だからできる授業がある

92%



② 授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある

59%



4. 地域との交流・信頼

① 保護者や地域住民とは、気軽に会話できる

81%



② 学校での活動について、保護者や地域住民に相談する

49%



教職員による回答結果！

－ワンポイント解説－

1. 協議会の意義の理解：学校と委員の関係性

学校管理職と委員の会議だけの関係では、信頼関係を築いていくことは難しい！



寿都小学校の学校視察の様子



潮路小学校のハロウィン集会の様子

児童・生徒による回答結果！

各自治体の成果状況について（内容面）：児童・生徒による回答結果「評価点&課題点」

1. 地域における大人との関り

① 地域のお祭りなど地域の行事やイベントに参加する

86%



② 学校や家の近所で、地域の人のお手伝いをする

28%



2. 地域における異年齢間の関わり

① 地域の違う学年の人と交流する

68%



② 地域のほかの学校の子とも交流する

64%



3. 自己肯定感

① 自分はやればできる人間だと思う

80%



② 今の自分を気に入っている

70%



3. やり抜く力

① 困ったことができて、どうにかできると思う

79%



② 難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している

63%



4. 学習意欲

① 新しいことをつぎつぎ学びたい

70%



② 学校で習ったことや地域の人に教えてもらったことについて、もっと知りたいし、調べたい

52%



5. 地域への愛着の高まり

① いま住んでいる地域が好きである

87%



② 将来も今住んでいる地域に住み続けたい

40%



6. 地域貢献意識の高まり

① 自分も地域の人に役立ちたい

71%



② 地域のために自分には何ができるか考えることがある

44%



児童・生徒による回答結果！

－ワンポイント解説－

1. 地域における大人との関り：少年期における大人との関りによる効果①

「公民館など地域の活動に熱心に取り組む層には、
共通して15歳までの地域活動の分厚い体験がある。」

東京大学牧野研究室と飯田市公民館との2014－15年度共同研究



1. 地域における大人との関り：少年期における大人との関りによる効果②

「まちの将来を見据えた人づくり」 キーワード 「多様な人との出会い」・「興味」・「影響」

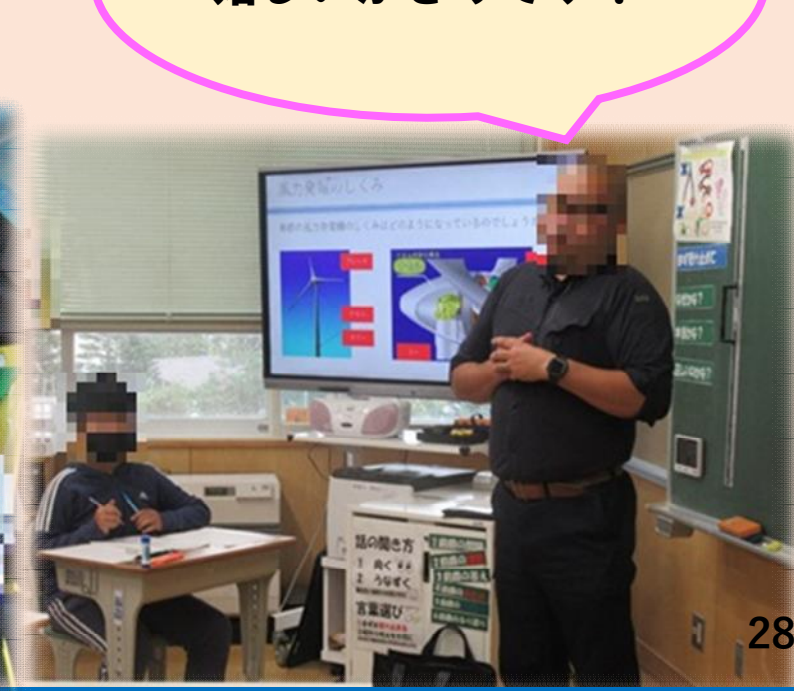
学校づくりは「ひとづくり」、人づくりは「地域づくり」

授業でお世話になった土開さんの**影響**
を受け**役場に就職**を決めました！
今度は子どもたちを支える側に！

優しく教えてもら
い嬉しかった！

嬉しいかぎりです！

こんな**面白い仕事**が
あるんですね！



3. 次年度に向けて

次年度の調査・研究の方向性（予定）

① 仮説の設定

② モデル自治体による仮説の検証

③ 実地研修